

WEST LIFE

令和7年10月22日(水)

校長の目



1階にあるみんなの学級の掲示板には、50周年を祝うために生徒たちが考えたロゴが貼られています。学校としてのロゴはすでに投票により選出されていますが、こうやって一人一人が自由な発想でデザインを考えてくれていることは、とても嬉しいですね。



感心したのは、紙粘土で作られた立体のロゴです。立体を募集することは考えていなかったので、生徒たちの発想の豊かさに驚くばかりです。

1年生の国語の授業は、暗唱のテストを行っているところでした。題材は、いろは歌です。「いろはにはへと ちりぬるを…あさき ゆめみし えいもせす」をすべて覚えます。本校では、国語の学習の一環として、学年に応じた暗唱を取り入れています。上位学年になると、平家物語、枕草子、方丈記など、古典も暗唱しています。暗唱といっても、ただ覚えればいいわけではありません。内容も理解して暗唱するようにしています。いろは歌も、ひらがなの羅列をやみくもに暗記するのではなく、「色は匂へど 散りぬるを 我が世誰ぞ 常ならむ…」と漢字仮名つづりも扱い、現代語訳もしています。暗唱は、さまざまな文芸作品に興味を持つきっかけになる学習活動です。



2年生の数学では、平行線の性質について発展的な学習を行いました。本時は、「平行線に交わる直線によってつくられる同位角はなぜ等しいのか」を問いました。同位角が等しいことは、小学校算数の内容です。しかし、その証明は中学校でも行わず、定義のように扱っています。それをあえて証明してみようというチャレンジです。発展的な内容なので先生と一緒に証明してきました。先生からは、考え方の入り口となる重要なヒントが出されます。「もし、同位角が等しくなったら？」



これは、いわゆる高校で学習する背理法です。中学校数学では、「〇〇という条件なので…」と考えて証明していきますが、背理法は「〇〇でないとするならば…」という逆からのアプローチで考えます。証明の詳細は省略しますが、結論として導かれたのは、「同位角が等しくなったら、二本の直線は平行でなくなってしまう」ということで、前提となる条件が崩れてしまいます。このことから、平行線に交わる直線によってつくられる同位角は等しいということが証明されました。